

第65回 全日本中学校長会研究協議会
北海道(苫小牧)大会

平成26年 10月8日(水)・9日(木)・10日(金)

The 65th, All-Japan junior high school principal society meeting in TOMAKOMAI



とまこまっぴ

©2011 苫小牧市公式キャラクター

第1日 10月8日(水)

11:00	11:30	13:50	14:00	17:00	17:30	18:00	20:00
受付	全日中 常任理事会	受付	全日中 理事会	受付	歓迎の集い レセプション		
12:30	13:00	14:30	15:00	17:00			
受付	全体協議会 運営委員会	受付	分科会 運営委員会				

第2日 10月9日(木)

時間	行事	実施内容	時間
8:30	受付	会場準備完了、各係配置完了 受付名簿照合 資料配付	55分
9:25		開会式準備完了	
9:30	開会式	1 開式のことば	50分
		2 国歌斉唱	
		3 あいさつ 大会実行委員長 大会会長	
		4 祝辞 文部科学大臣 北海道知事 苫小牧市長 北海道教育委員会教育長	
		5 来賓紹介	
		6 祝電披露	
10:20		7 閉式のことば	
	会場整理		10分
10:30		文部科学省説明	40分
11:10	準備		10分
11:20	全体協議会	1 開会のことば	50分
		2 議長団あいさつ	
		3 全体協議 第一研究協議題(全日中) 第二研究協議題(三重県)	
		4 宣言・決議の提案(全日中総務部長)	
12:10		5 閉会のことば	
13:40	移動 昼食	諸連絡・各分科会への移動・昼食配布	90分
13:45	分科会	1 開会のことば、係紹介	180分
		2 司会者あいさつ	
		3 日程説明・運営について	
		4 研究発表	
		5 研究協議	
		6 まとめ	
		7 司会者あいさつ	
		8 諸連絡	
16:45		9 閉会のことば	

第3日 10月10日(金)

時間	行事	実施内容	時間
8:30	受付	会場準備完了、各係配置完了	45分
9:15		受付 宣言・決議(案)配付 分科会連報配布	
9:20	アトラ クション	室蘭市立翔陽中学校ジャズバンド部による演奏	30分
9:50			
	会場整理		10分
10:00	全体会	1 協議 ・議長団あいさつ ・大会宣言・決議 ・その他 ・議長団あいさつ	20分
10:20		2 諸連絡	
	準備		10分
10:30	記念 講演	1 講師紹介	90分
		2 講演	
12:00		3 花束贈呈	
	準備		10分
12:10	閉会式	1 開式のことば	20分
		2 あいさつ ・大会会長 ・大会実行委員長 ・次期開催地代表(福岡県)	
12:30		3 閉会のことば 諸連絡	
	散会		



第65回全日本中学校長会研究協議会北海道(苫小牧)大会実行委員長

北海道中学校長会会長 吉田俊樹

全国各地からお集まりいただきました会員の皆様、ようこそ北海道苫小牧にお越しくださいました。心から歓迎申し上げます。

第65回全日本中学校長会研究協議会北海道(苫小牧)大会が、この北海道苫小牧の地で、全国からご参集いただきました会員の皆様とともに開催できますことは、この上ない光栄であり、大きな喜びであります。

本大会は「自立と共生 夢を育む北の大地 氷都苫小牧から」を大会のスローガンに掲げ、一昨年の大阪大会、そして、昨年の福井大会に引き続き、研究協議主題を「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え、社会において自立的に生きる日本人を育てる中学校教育」とし、3年目のまとめの大会として開催する運びとなりました。

今日、我が国は少子高齢化・知識基盤社会化、グローバル化などの社会の急激な変化の中において日々の生活基盤までもが大きく変容し、物質的な豊かさの一方で人間関係の希薄化や雇用の不安定化などにより、日常生活において心の豊かさを実感できにくい状況があります。学校では、いじめや不登校、暴力行為などの生徒指導の諸課題などの解決・解消が引き続き重要な課題となっています。また、学力向上はもとより、家庭や地域社会との連携を一層強化し、生徒の学習や生活基盤づくりや、規範意識の育成、加えて、すべての活動の源である体力の向上など、健やかな心身の育成が学校教育に求められております。

このように、学校教育を取り巻く諸課題は多様化・複雑化しており、目の前の一つ一つの課題をしっかりと見据えた堅実な教育の取組が一層重要になっております。適切な教育課程の編成・実施・評価を通して、生徒が自ら考え、進んで行動できる自立した個人として、心豊かにたくましく生き抜いていく基礎となる力の育成を図っていく上からも、私たち校長は、学校教育の責任者としての使

命感と確固たる教育信念を持ち、それらの諸課題の解決・改善に向けて力強くリーダーシップを発揮しなければなりません。保護者に信頼され、地域に誇れる学校の創造はまさに校長の双肩にかかっていると言えます。

本大会においては、今後の学校経営の基盤・指針とも言うべき全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」を踏まえ、8つの分科会において研究主題に迫る具体的な方策を究明しながら、全国からの提案や実践に基づく研究成果の共有や今後取り組むべき課題の共通認識を持つことは、きわめて意義深いものと考えます。本大会を通して、全国の中学校長の英知と創意を結集し、我が国中学校教育の一層の充実発展を期したいと考えております。

さて、苫小牧市は、北海道の中央南部の太平洋に面する広大な勇払平野に位置し、函館市や札幌市、日高地方との交通の要衝にあり、古くから東胆振、日高地方における経済、文化の中心として発展してきた都市です。また、明治末期の製紙工場の立地を契機に発展した工業都市としての側面もあり、世界で初めての内陸掘り込み港の建設、西部工業地帯、東部工業基地の開発がなされ、北海道経済を支える工業の拠点都市として大きな役割を担っています。一方、苫小牧市が位置する胆振地方の約半分を支笏洞爺国立公園が占め、湖沼・火山・温泉など豊かで雄大な自然に恵まれ、また、地元ならではの新鮮な食材を使った食べ物がたくさんあります。素朴な中にも味わい深い北海道そして苫小牧の魅力を十分に堪能していただければ幸いです。

終わりにになりましたが、文部科学省をはじめ多くの関係機関、関係各位のご支援・ご協力を賜りまして本大会を迎えることができましたことに心より感謝を申し上げます、挨拶といたします。



第65回全日本中学校長会研究協議会北海道(苫小牧)大会会長

全日本中学校長会会長 松岡敬明

第65回全日本中学校長会研究協議会北海道(苫小牧)大会が、「自立と共生 夢を育む北の大地 氷都苫小牧から」の大会スローガンのもと、北海道苫小牧市で開催されますことを心よりお慶び申し上げます。本大会の開催準備に当たられました大会実行委員長 吉田俊樹様、大会運営委員長 村上廣行様をはじめ、北海道中学校長会の皆様のご尽力に心より敬意を表します。また、ご指導・ご鞭撻を賜りました文部科学省、北海道、北海道教育委員会並びに苫小牧市、苫小牧市教育委員会をはじめ多くの方々に深く感謝申し上げます。

全日本中学校長会は、平成24年度に全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」の改訂を行いました。その経緯については、昨年度の第64回福井大会において全日中提案として発表があり、特に10の提言の内容について、より現状に即したものと見直しを図り、本年度2年目を迎えております。この間、各地区の校長会におかれましては、その趣旨を生かした行動目標を設定され、意欲的に取り組み、一定の成果をあげてこられたものと拝察いたします。

現行学習指導要領の実施も、今年度で3年目に入り、各中学校においては、学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施に取り組み、生徒たちの「生きる力」の育成を図っているところです。昨年度、教育研究部が実施した教育課程の編成・実施及び学級編制に関する調査によれば、大半の学校が基礎的・基本的な知識・技能の習得に関する指導については、順調に実施できているとの回答が報告されています。その一番の理由として、教育活動を具現化するための教員組織を挙げている学校が最も多くのぼっています。このことは、とりもなおさず、私たち校長が、学校組織をあげて生徒の確かな学力の伸長を図っていることに他なりません。

ん。その一つの客観的成果として、昨年末に公表された経済協力開発機構(OECD)による生徒の学習到達度調査いわゆるPISAの2012年調査の結果が物語っています。それらによれば、我が国の結果は、数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーのいずれにおいても、2000年の調査開始以降で最も高く、順位も前回は上回ったとのこと。このことについて、文部科学省は「学習指導要領の改訂や少人数指導の普及などいわゆる『ゆとり教育』から脱却し、確かな学力を育成する取組が功を奏した」との見解を示しました。また、各メディアもその要因として、「2009年からはゆとり脱却を掲げ授業時数を増やすなどした新学習指導要領が一部実施され、2012年の調査に参加したのは、こうした脱ゆとり政策の世代である」と報道しました。2009年といえば、平成21年であり、正に全日中教育ビジョン誕生の年でありました。この調査結果は、私たち校長が全日中教育ビジョンに掲げた「確かな学力」をはじめ、中学校教育の充実・発展に向け精力的に取り組んできたことの一つの証しでもありましょう。

さて、本研究協議会の主題「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え社会において自立的に生きる日本人を育てる中学校教育」がありますが、第63回大阪大会、第64回福井大会と、この間同一主題で研究協議を進めてまいりました。そして、今大会において3年目を迎えいよいよ集大成という段階であります。各分科会においても、ぜひ活発な協議が展開され、その成果が全国の中学校長にとって明日の経営に資するものとなりますことを、そして、それが延いては我が国の中学校教育の向上につながるような価値ある大会となりますことを祈念して、挨拶いたします。